

研究・発言

1957年5月刊

村落研究会事務局

大阪市立農業研究所
研究室

本年度大会と課題決定

一、報告保護「自由課題」（農家の収穫化・その他の）

二、シムポジウム「戦後十年農村の変貌」

かねて決定を迫られて居りましたが、本年度大会のもち方に付いて、最後的に事務局として右のように議論を決定いたしました。また、秋の大会は専門会と切離して専門で開催することとし、報告討論のみつりやるたために一日二日になりました。第一日を報告及びこれについての討論、翌日をシムポジウムに定てる予定です。この点は開催時期と場所等の都合もあるので確定的とは申せませんが、過去の大会について充分な論議がつかないまことに終つてしまふといった傾向も指摘されているので、研究会の実をあげるために一度はこういった大会の持ち方も必要ではないかと考へたわけです。

報告課題を「自由課題」とした理由は、論考のアンケートに示される通り会員農民の多様な研究関心にかんがみ、今まで報告する農業や農業を持ちながら課題に規約せられて先鋒の研究会に恵まれなかつた方々に出てもらおうと、が主なものです。昨年の大会で具体的に提出された「収穫農家」や「近郊耕」の問題、特に前者に附連して「農家の収穫化」としくわ「収穫化とその影響」といった課題一本でやることも考えてみましたが、結局右の理由からこの問題をも含めて「自由課題」とした次第です。しかし収穫の問題は有賀さんの手紙にも指摘してある様で、現在の日本農村を抱える場合重要な視点

の一つであり、これをめぐる生産や消費（生活様式）、家及び村の構造、農民の意識やベースナリティー、勞働の結び付きといった面で多角的に追求されるべき好適の課題であります。これに関しては既にから農業経済や農民農村に関する社会情勢や農民的性格を規定する研究が築積せられていますが、社会情勢や農民的性格を規定する農業の発展についてはまだ本格的な検討が加えられて居ない様に思われます。大会の報告や討論においてこの問題が取り上げられ、今後の研究の観点が設定されることを期待します。

シムポジウム「戦後十年農村の変貌」は報告討論以外に本年度の大会で特徴とする論題です。最初は事務局案として、「農（山・瀬）村の近代過程」といつたものを報告課題として考えて居りましたが、その後各方面の意向を参考した末、これをシムポジウムの方に改し、時期的に戰後を中心にして変化の様相を取り上げることにしました。これでも随ばく然として居るしました。村落共同体の問題をもとと深く検討したいという意見もありますが、司会者並びに問題提起者の方にそろひう込みで論議を用意してもらい、後は会員の無役な意見にまつことに致し度いと思います。要は大会への参加者が随分なく意見を交換し、何か持つて帰れるような題目としてこれを過んだまでであつて、顧みにとらわれずふんだんの研究成果を討議の場に坐かして頂きたいと思います。

右の次第で本年度は例年の様に特に課題委員を設けませんが、その代りに右の課題についての解説や見解をできるだけ「通信」に掲載するつもりなので、積極的に原稿を事務局までおよせ下さい。尚本年の大会期日及び開催地は七月末までに決定する予定ですが、例年報告者の依頼等に手間取るようなので、報告希望者は八月末日迄に、所姓氏名・題名・報告要旨を事務局宛て送信願います。

最後に課題決定に至る経過について一言しておきます。三月中旬事務局（中島）より上京の機会に福岡・中野・松原の三会員と話し合い、その結果をもつて四月上旬在阪会員田・山本・中島の三人で協議の結果、ほぼ右の成案を得ました。これと前後して帰京中の多摩会員よりも原案に賛成のお便りがあり、やゝ後れて有賀・竹

内閣会員よりも後輩のような意向が示されましたが、北海道・九州等からは特別の意向ももうかがえなかつたので、結局東京・大阪での話し合いをもとにして決定した次第です。なお本年度課題の参考までに、有賀・竹内両氏の御便りの一部を拝借させて頂きます。

(事務局 中 島 駒)